

第5回 「障害者コミュニケーションについて」

1 調査目的

障害者コミュニケーション条例や障害者差別解消推進条例に基づき、障害特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に取り組んでおり、意思疎通支援者の養成や合理的配慮の浸透のための普及啓発等を行っているところです。

今後の障害者コミュニケーション支援施策等の基とするため県民への理解浸透度等の調査を実施します。

(担当課:保健福祉部 障害福祉課)

2 調査概要

(1) 調査対象者

753名 (とちぎネットアンケート協力者)

(2) 調査期間

令和5(2023)年8月8日 ~ 8月21日

(3) 調査方法

電子メールにより周知・回答依頼。電子申請により回答

3 回答者属性

回答数 338名 (回答率44.9%)

(1) 男女別内訳

性別	回答者数	構成比
男性	161	47.6 %
女性	174	51.5 %
答えたくない、わからない、その他	3	0.9 %
計	338	

(2) 年代別内訳

年代	回答者数	構成比
10代	3	0.9 %
20代	7	2.1 %
30代	33	9.8 %
40代	91	26.9 %
50代	84	24.9 %
60代	70	20.7 %
70代以上	50	14.8 %
計	338	

(3) 地域別内訳

地域	回答者数	構成比
県央	159	47.0 %
県南	93	27.5 %
県北	86	25.4 %
計	338	

(注)

(1) 調査結果に使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。

(2) 割合を百分率(%)で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示。四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。

(3) 図表中の語句は、表記を短縮・簡略化している場合があります。

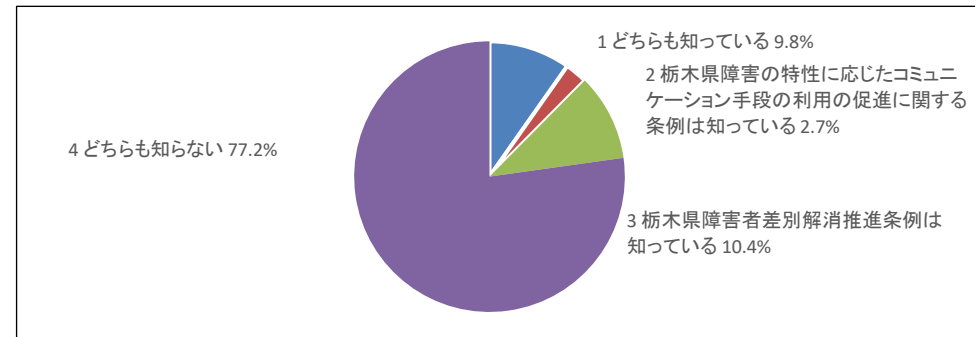
4 調査結果

問1 あなたは、「栃木県障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」や「栃木県障害者差別解消推進条例」があることを知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

	構成比	回答数
1 どちらも知っている	9.8%	33
2 栃木県障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例は知っている	2.7%	9
3 栃木県障害者差別解消推進条例は知っている	10.4%	35
4 どちらも知らない	77.2%	261

(n = 338)



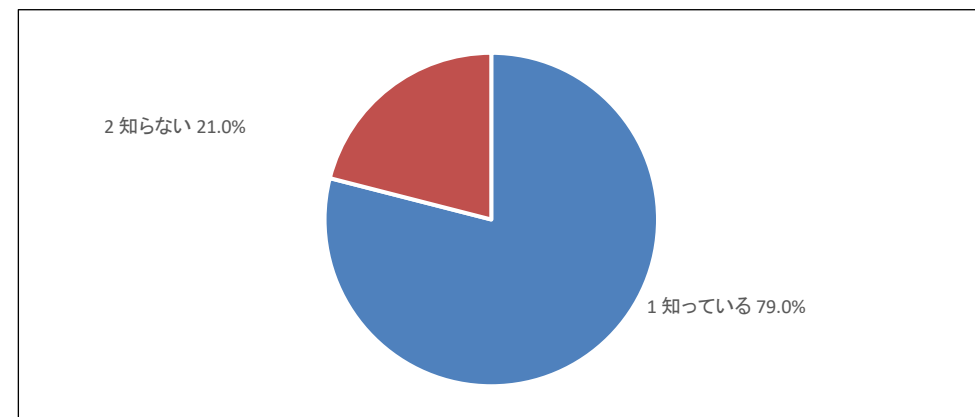
問2 あなたは、障害の特性に応じたコミュニケーション手段を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

※障害の特性に応じたコミュニケーション手段:手話、点字、要約筆記、触手話、指点字、筆談、代筆、
代読、平易な表現、表情、身振り、手振り、実物又は絵図の提示、ICT機器など

	構成比	回答数
1 知っている	79.0%	267
2 知らない	21.0%	71

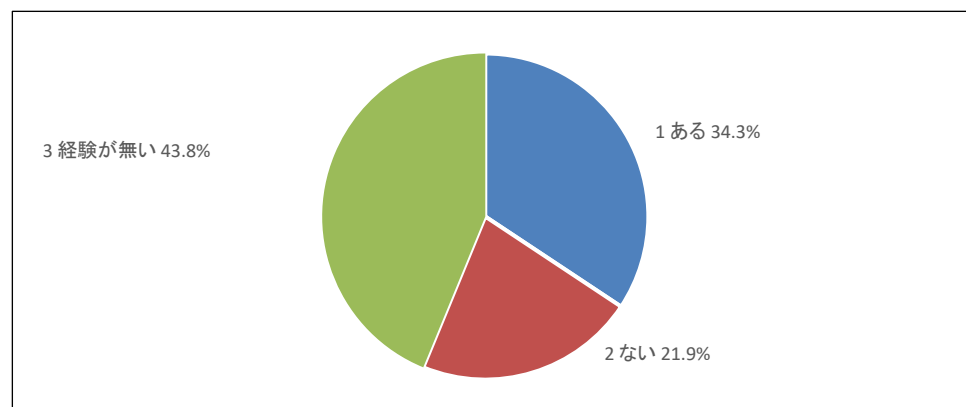
(n = 338)



問3 あなたは、障害のある方とコミュニケーションをとる際、困ったことはありますか。

	構成比	回答数
1 ある	34.3%	116
2 ない	21.9%	74
3 経験が無い	43.8%	148

(n = 338)



問4 (問3で選択肢1を選んだ方にお聞きします。)

具体的にどのようなことで困ったかお書きください。(場面、内容、事由などを具体的に記入)

意見数:116件

○主な意見

意見数	内容
42	障害特性に応じた意思疎通が難しく、思うように伝わらない
21	障害特性に応じた意思疎通方法が分からない
7	筆談等のコミュニケーションに時間を要する
3	微妙なニュアンスや詳細な説明をするのが難しい
3	相手がどこまで理解できているかが分からない

問5 (問4を回答した方にお聞きします。)

今後、どのような情報取得やコミュニケーションに関する支援が普及すれば、問4のような事例を解消できると思うかお書きください。

意見数:97件

○主な意見

意見数	内容
24	ICTの活用
14	講習会の開催
7	学校で学習する機会を設ける
5	何に困っているかが分かるツールの携帯
3	障害特性に応じたコミュニケーション方法の周知

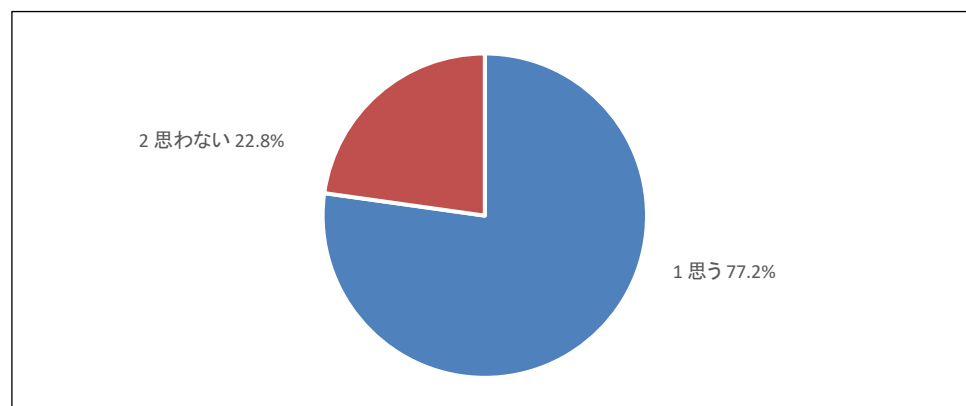
問6 あなたは、障害のある方に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。

次の中から1つ選んでください。

※障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進を図るためには、障害のある方への理解や寄り添った気持ちが重要であるため、県民の方の認識を確認

	構成比	回答数
1 思う	77.2%	261
2 思わない	22.8%	77

(n = 338)



問7 困っている障害者やヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

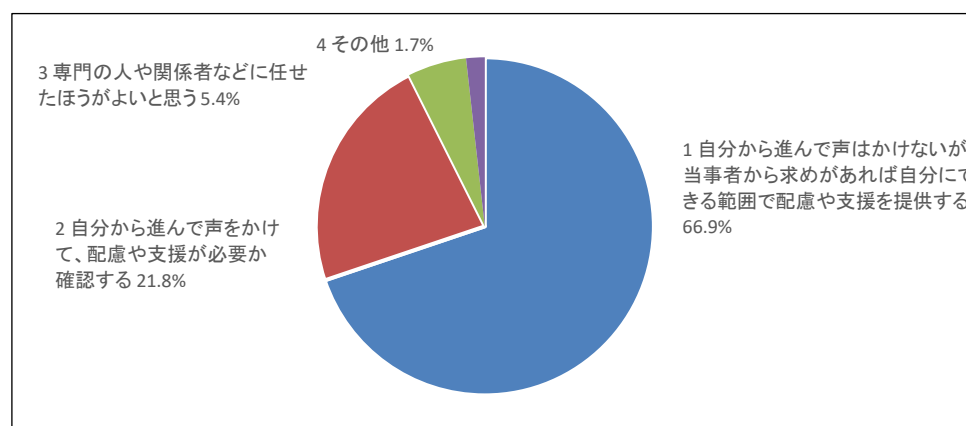
※ヘルプマーク：聴覚障害や失語症、発達障害がある方など、外見から分かりにくいのが、配慮や支援を必要としていることを周囲に知らせるために作られたマーク

	構成比	回答数
1 自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば自分にできる範囲で配慮や支援を提供する	66.9%	236
2 自分から進んで声をかけて、配慮や支援が必要か確認する	21.8%	77
3 専門の人や関係者などに任せたほうがよいと思う	5.4%	19
4 その他	1.7%	6

(n = 353)

【その他の主な意見】

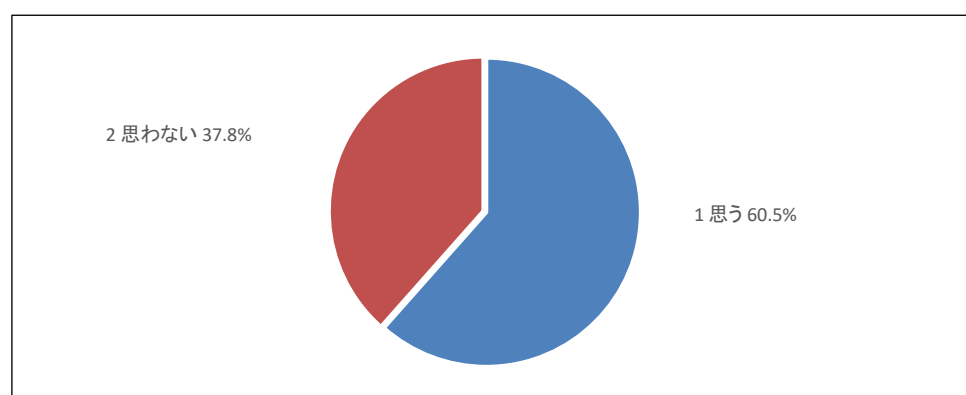
・ケースバイケースで対応するのがよいと思う(他類似意見2件)



問8 あなたは、災害が起きた場合、災害情報、避難情報及び避難所における支援情報等の取得が難しい障害者がいることを考えて行動できると思いますか。

	構成比	回答数
1 思う	60.5%	208
2 思わない	37.8%	130

(n = 344)



問9（問8で選択肢2を選んだ方にお聞きします。）

思わない理由をお書きください。

意見数:130件

○主な意見

意見数	内容
68	自分や家族のことで精一杯
14	身近に障害者がいるか分からない
12	どのような支援をすればいいの分からない
6	今まで考えたことがなかった
2	知識がない者が支援しても助けになれないと思う